談話室

農業と心の教育

私は，農林中央金庫の職員を長くやっておりましたが，40代後半からは，多くの年月を学校や教育の社会でお世話になり現在に至っております。学校生活のなかで，特に感じましたのは，心の教育に及ぼす農業や自然，命あるものの力の大きさということです。

1996年から２年間，農林中央金庫から出向の形で，八ヶ岳中央農業実践大学校にお世話になりました。ちょうどその頃から，千葉県の我孫子中学校など，いくつかの小中学校が，農林業体験学習で大学校を訪れていました。当時，我孫子中学校は，千葉県で最大規模の中学校でした。300人近い生徒が，畑や家畜，森林などの手入れに汗を流しておりました。引率のため来校された校長先生は，「農林業体験学習をやるようになってから，いじめや悪いことをする生徒は一人もいなくなった」と話しておられました。私は，半信半疑でした。校内の芝生広場で行う開校式で，中学生の顔を何回も見渡してみました。皆が皆，穏やかで優しい表情をしていました。「これは，確かに校長の言うとおりだ。この中学校には，いじめなどはないのかもしれない」と思ったのでした。

その後，しばしの時が流れ，2003年春，私は，ふるさと山形県に40年ぶりに帰郷しました。県立高校で民間人校長をやることになったのです。ふるさとの子供たちは，私たちの子供時代とは，いろいろな面で大きく違っておりました。最も驚いたのは，不登校や心の悩みを抱える生徒，携帯電話やメールを使ったいじめの増加などでした。私の小中学校の同級生は160人で，９年間ずっと一緒でしたが，不登校の仲間など一人もいなかったのです。地元の教育の専門家に聞いてみました。「不登校は，農村でも珍しくなくなった。なぜかはよくわからないが・・・。ただ，農家の子供でも農作業を手伝うことは，ほとんどなくなった。学校から帰ると，家の中でパソコンやゲーム機に向かって一人で遊んでいる。稲の花がいつ咲くかも知らない」とのことでした。

昔と同じように，「悪いこと」をする高校生は，今もけっこうおります。昔は，「同級生を殴った」とか「たばこを吸った」などが多かったように思いますが，現在は，「万引き」「いじめ」「カンニング」などが大半です。その多くは，なん

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。

らかの心の悩みによるものです。

「悪いこと」をすると，昔は停学処分になりました。今は，「特別指導」といいます。生徒と保護者が，一緒に校長室に呼び出され，教室への出入りを禁止されます。その後，しばらくの間，いろいろな教員が，入れ代り立ち代り別室で説諭をし，反省文などを書かせます。学校社会における伝統的な「特別指導」です。もちろん，これはこれで意味はあるのでしょうが，私は，いまひとつすっきりとしないものを感じていました。八ヶ岳での我孫子中学校のことなども思い出しておりました。

「悪いこと」をした生徒を，一週間ほど農家に預かっていただき，農作業をさせていただくことにしました。生徒には，「悪いことをした罰として，力仕事や汚れる仕事をやってもらうのではないよ」ということを丁寧に説明し送り出しました。ほとんどの生徒は，みるみるうちに生気を取り戻し，目を輝かしてくれるようになりました。長く，「特別指導」をやってきた先生からは，「あんな生徒が，こんなにも立ち直ってくれたのは初めて・・・」という感想も寄せられるようになりました。山形県長井市のレインボープラン(生ゴミの堆肥化による食と農の地域内循環)を企画推進した菅野芳秀さん，日本における酪農教育ファームをリードしてきた蔵王山麓の山川喜市さん，早稲田大学の故大塚勝夫教授が設立された屋代村塾(高畠町)の皆様には，とりわけお世話になりご指導いただきました。

昨年春，十数年ぶりに八ヶ岳の大学校にお世話になることになりました。この間に最も大きく変化し驚いたのは，農林業体験学習に訪れる小中学生などの急増ぶりです。年間２万人近い児童・生徒が，首都圏などから訪れ，さまざまな体験学習に真剣に取り組んでいるのです。日本一の農業教育ファームに成長した八ヶ岳の大農場にたたずみ，しばしば感無量の想いにふけっているところです。

全国の多くの子供たちが，それぞれの地域で農村の現場に足を運び，自然や農林業への理解を深めると同時に，心も耕してもらえればと願っています。こうした子供たちが，将来，社会人になり，父親や母親になった時，日本という国は，心穏やかな，生まれてよかった，生きていてよかったと思えるような国になるのだろうと確信し，期待しているところです。

(八ヶ岳中央農業実践大学校校長　小口英吉・こぐちえいきち**)**

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。